

# 大平寺遺跡 1

— 大平寺遺跡第 2 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1225 集

2014

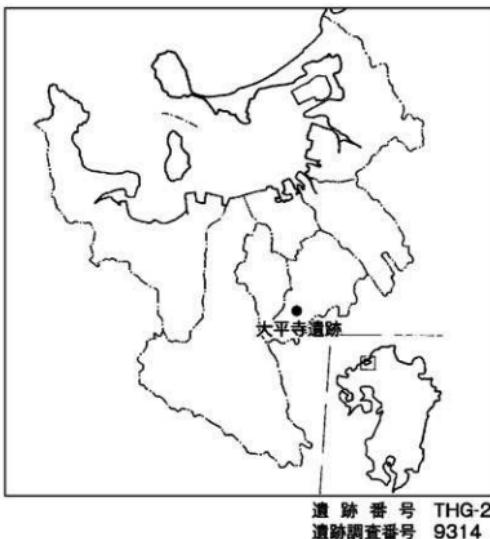
福岡市教育委員会



# 大平寺遺跡 1

— 大平寺遺跡第 2 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1225 集



2014

福岡市教育委員会



# 序

福岡市には、豊かな自然と、文化遺産がのこされています。地理的位置から、古くから対外交渉の拠点の一つとして大きな役割を担ってきました。

これら先人の遺産を保護し未来へと伝えていくことは、私たちの重要な務めです。

福岡市教育委員会では、開発によってやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録の保存、出土遺物などの活用に努めています。

本書は、共同住宅建設に伴い、平成5年6月から8月にかけて発掘調査を実施した南区大平寺遺跡の第2次調査の成果を報告するものです。この調査では古代の集落跡が確認されました。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から本書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対し、こころからの感謝の意を表する次第です。

平成26年3月24日

福岡市教育委員会  
教育長 酒井龍彦

## 例　言

1. 本書は福岡市教育委員会が共同住宅建設に伴い、福岡市南区大平寺二丁目327外で発掘調査を実施した大平寺遺跡第2次調査の報告である。

1. 本書で報告する調査の細目は下表のとおりである。

調査番号	遺跡略号	調査対象面積	調査面積	調査期間
9314	THG-2	2259m <sup>2</sup>	1261m <sup>2</sup>	1993年6月1日～8月20日

1. 本書に掲載した遺構の写真撮影・実測は佐藤一郎（埋蔵文化財審査課主任文化財主事）が行った。

1. 遺構と遺物の写真撮影・実測は佐藤、製図は佐藤、小畠貴子が行った。

1. 遺物の整理は整理補助員の古賀美江・小畠が行った。

1. 本書に用いた方位は座標北である。

1. 遺構は2桁の通し番号を用い、遺構の種類に応じてSB（掘立柱建物等）、SD（溝）の略号を番号の前につけた。

1. 本書に関わる図面、写真、遺物など一切の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管される予定である。

1. 本書の執筆、編集は佐藤が行った。

# 本文目次

I	はじめに	5
1	調査に至る経緯	5
2	調査の組織	5
II	遺跡の位置と周辺の歴史環境	7
III	調査の記録	8
1	調査の概要	8
2	遺構と遺物	9
IV	小結	16

# 挿図目次

第1図	大平寺遺跡の位置と周辺の遺跡（縮尺 1/25000）	6
第2図	大平寺遺跡第2次調査周辺地形図（縮尺 1/500）	8
第3図	大平寺遺跡第2次調査遺構配置図（縮尺 1/125）	折込み
第4図	SB11・12掘立柱建物（縮尺 1/60）	10
第5図	SB13掘立柱建物（縮尺 1/60）	11
第6図	SB14掘立柱建物（縮尺 1/60）	12
第7図	SB15掘立柱建物（縮尺 1/60）	13
第8図	SB16掘立柱建物（縮尺 1/60）	14
第9図	SA10・SB17掘立柱建物（縮尺 1/60）	15
第10図	出土遺物実測図（縮尺 1/3）	16

## 図版目次

- 図版1 1. 大平寺遺跡第2次調査全景（南から） 2. 掘立柱建物群（南東から）  
図版2 1. 南西掘立柱建物群（南東から） 2. 北東掘立柱建物群（南西から）  
図版3 1. 調査区上中段調査前（東から） 2. 調査区上段（南西から）  
3. 調査区最上段（南から） 4. ピット状遺構根石（南から）  
図版4 1. SB11 Pit62土層（西から） 2. SB11 Pit63土層（北から）  
3. SB11 Pit134土層（北から） 4. SB13 Pit133土層（西から）  
5. SB13 Pit79土層（東から） 6. SB14 Pit21土層（西から）  
7. SB15 Pit49土層（西から） 8. SB15 Pit51土層（西から）  
図版5 1. SB15 Pit109土層（南から） 2. SB15 Pit22土層（南から）  
3. SB16 Pit135土層（西から） 4. SB16 Pit18土層（南から）  
5. SB16 Pit45土層（西から） 6. S A10 Pit32土層（南東から）  
図版6 1. 調査風景（北東から）  
2. 出土遺物

## 表目次

- 第1表 大平寺・柏原M遺跡発掘調査一覧表 ..... 7

# I は じ め に

## 1 調査に至る経緯

1992（平成4）年9月2日付で個人から福岡市埋蔵文化財課に福岡市南区大平寺二丁目327他の共同住宅建築に伴う埋蔵文化財事前調査申請書（4-2-204）が提出された。申請地は周知の文化財である大平寺遺跡内に位置し、1992（平成4）年10月6日と既存建物解体後の1993（平成5）年4月21日に確認調査を行い、現地表面から約0.2～0.7mの深さで遺構が確認された。確認調査の結果とRC造建物の基礎設計図を照合したところ、計画されている建物基礎では遺跡の破壊が免れないため、やむを得ず建設に先立ち記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。協議を重ねた結果、1993年6月1日から8月20日までの期間で調査を行った。調査期間中は施工業者からプレハブやトイレ、水道、電気等の協力を得た。発掘調査費用・資料整理費用には国庫補助金が適用された。諸般の事情により資料整理は平成25年度に行った。

## 2 調査の組織

### 発掘調査主体

福岡市教育委員会

発掘調査（平成5年度）

福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課	整理・報告（平成25年度）
課長 折尾 学	課長 米倉 秀紀
調査第2係長 山崎 純男	事前審査係長 加藤 良彦
事前審査担当 山口 讓治（主任文化財主事）	資料整理 佐藤 一郎（主任文化財主事）
菅波 正人（文化財主事）	埋蔵文化財調査課
発掘調査 佐藤 一郎（文化財主事）	課長 宮井 善朗
	調査第1係長 常松 幹雄
	調査第2係長 榎本 義嗣

試掘調査は平成4年に埋蔵文化財課事前審査担当 荒牧宏行が行った。

調査・整理の庶務は文化財部埋蔵文化財課（平成5年度）の吉田麻由美・埋蔵文化財審査課管理係（平成25年度）の川村啓子が行った。

### 発掘作業員

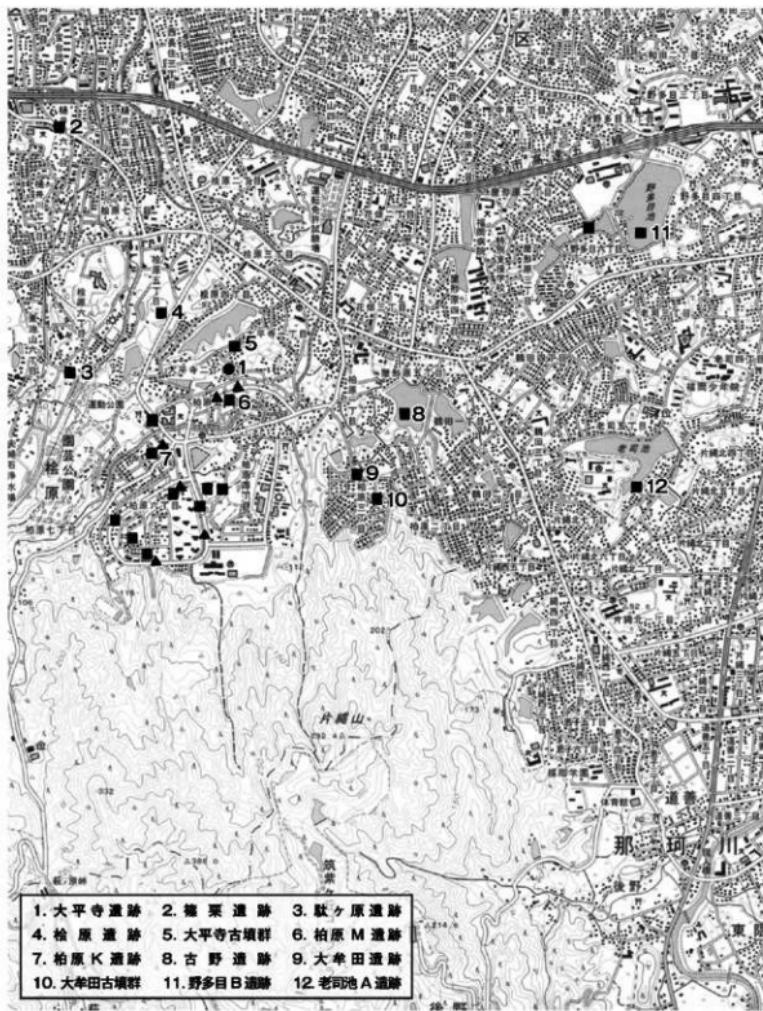
伊藤美伸・井上秀一・岩間俊之・越智信孝・裕奈緒子・熊谷篤史・塙塚和也・志堂寺堂・杉田孝治・早田明美・中村米重・長田健・羽岡正春・原田明美・藤野保夫・藤原直子・松井一美

### 整理作業

古賀美江・小畠貴子

また、施工の建設会社、地元大平寺二丁目町内各位、発掘作業員、整理作業員の方々のご協力により、大平寺遺跡第2次発掘調査、報告書作成にまで至ることができたことに対し心から謝意を表する。

なお文化財部は、組織改編のため平成24年4月1日付で教育委員会から経済観光文化局に移管した。



第1図 大平寺遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25000)

## II 遺跡の位置と周辺の歴史環境

大平寺遺跡は、福岡平野の西部を南北に貫流する樋井川上流域左岸の標高30~40mの丘陵地帯に立地している。古代以降、早良郡比伊郷に属し、近世においては早良郡柏原村とその南に位置する柏原村の村境にあった。

地名の起源である大平寺は続風土記によると東に位置する那珂郡屋形原村在住の千葉探題が帰依した寺と伝える。

大平寺遺跡の南西100m、油山東斜面、片縄山北斜面、樋井川左岸の柏原M遺跡では古墳時代から平安時代にかけての大規模な居館跡が検出されている。特筆される出土遺物として官衙遺跡が多くみられる硯、石帶の他、「山守家」と墨書きが記された9世紀代の須恵器皿がある。東側の大型掘立柱建物群については、山林管理のための官衙かとみられている。

樋井川上流域右岸では1979(昭和54)年から1984(昭和59)年に宅地造成に伴って柏原遺跡の発掘調査が行われ、多大な成果が上げられている。縄文時代草創期から早期の住居跡や集石炉跡が多数検出された集落遺跡、古墳は25基が調査され、その内最大のA2号墳は全長35mの前方後円墳で、6世紀中頃の首長墓とされる。

1996年改訂の福岡市文化財分布地図では柏原N遺跡の調査は大平寺遺跡に含まれることとなったが、調査次数は下表に示す通りである。

遺跡名	次数	調査番号	所在地	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	報告書	調査原因
柏原N遺跡	1	8347	柏原上原田	400.0	1983~	190	宅地造成
大平寺遺跡	2	9314	大平寺2丁目327外	1,261.0	1993.6.1~1993.8.20		共同住宅
(柏原N遺跡)	12						
柏原古墳群	1	7944	柏原	200.0	1979.5.1~1979.6.1	125	宅地造成
柏原A1遺跡/古墳群	2	7950	柏原字荒谷	1,200.0	1979~1984	158	宅地造成
柏原A2遺跡/古墳群	3	7951	柏原字荒谷	1,500.0	1980	190	宅地造成
柏原D遺跡/古墳群	4	8043	柏原字荒谷	2,000.0	1980~1981	125	宅地造成
柏原F遺跡/古墳群	5	8044	柏原字荒谷	20,000.0	1980~1983	90	宅地造成
柏原K遺跡・古墳群	6	8045	柏原字ゴソ	1,000		157/190	宅地造成
柏原C遺跡	7	8152	柏原字荒谷	10,000	1981~1982	190	宅地造成
柏原E遺跡	8	8153	柏原字岩流	300.0	1981	158	宅地造成
柏原J遺跡	9	8154	柏原字水ヶ谷	9,000.0	1983~1984	190	宅地造成
柏原L遺跡	10	8345	柏原字林崎	20,000.0	1983~1984	157/190	宅地造成
柏原M遺跡	11	8346	柏原字林崎、中園	400.0	1983~1984	190/191	宅地造成

第1表 大平寺・柏原遺跡発掘調査一覧表

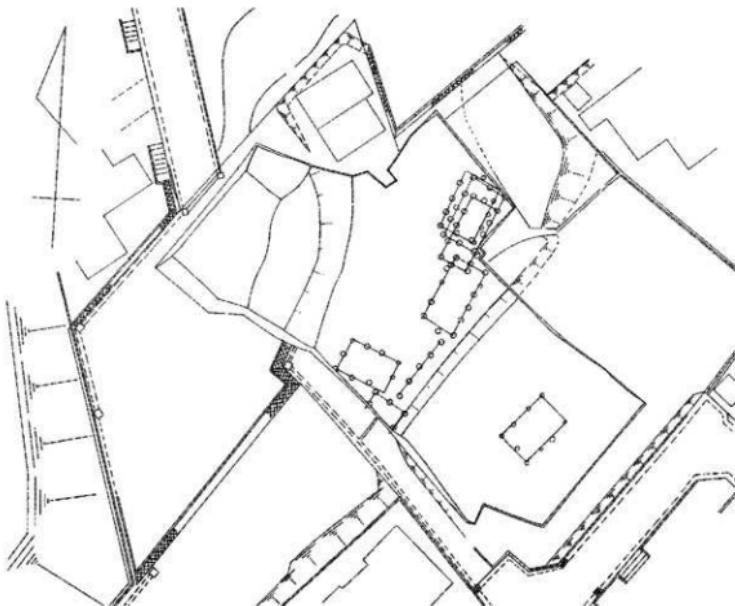
### III 調査の記録

#### 1 調査の概要

##### 発掘調査の経過

調査は共同住宅建設部分を対象とし、現況は木造家屋、畑で、遺構面は耕作土直下で確認された。緩斜面が後世の開墾により棚状に削平されており、残存する遺構には偏りがみられる。

6月1日に表土剥ぎ、残土は北側に置くこととした。6月7日から作業員を投入し遺構検出を開始した。調査では7世紀初頭から9世紀前半にかけての掘立柱建物群と溝が検出された。建物の内訳は梁間2間×桁行3間の建物2棟、梁間2間×桁行4間の建物3棟、梁間2間×桁行5間の建物1棟、建物の西側が調査区外へ延びる梁間2間の建物1棟である。まとめられた建物はすべて側柱からなる。柱穴の掘り方はすべて円形で、直径50~70cm、深さは深いもので40cmを測る。柱痕跡の直径は15~25cmの間におさまる。建物の主軸方位はN-30°-Eに取るもののが大半である。溝や柱穴掘り方からは須恵器・土師器が出土している。



第2図 大平寺遺跡第2次調査周辺地形図 (1/500)



第3図 大平寺遺跡第2次調査遺構配置図 (S=1/125)

## 2 遺構と遺物

### 検出遺構

#### (1) 掘立柱建物

##### S B11 (第4図)

調査区の北西で検出した2間(3.4m) × 3間(5.5m) の東西棟建物で、主軸方位はN・30°・Eに取る。柱穴掘方はいずれも平面円形を呈し、径0.4~0.6m、深さ0.2~0.35mを図る。柱根は遺存していないが、4個の柱穴で柱痕跡を確認した。径15cm前後の円形を呈する。

##### S B12 (第4図)

調査区の北西で検出した2間(3.5m) × 1間以上の建物で、建物の南側が調査区外にかかる。主軸方位はN・35°・Eに取る。柱穴掘方はいずれも平面円形を呈し、径0.65m、深さ0.45~0.55mを図る。4個の柱穴で柱痕跡を確認した。径15cm前後の円形を呈する。SD04溝と重複している。

##### S B13 (第5図)

調査区の北東で検出した2間(3.6m) × 5間(7.0m) の南北棟建物で、主軸方位はN・30°・Eに取る。柱穴掘方はいずれも平面円形を呈し、径0.45~0.55m、深さ0.35~0.75mを図る。3個の柱穴で柱痕跡を確認した。径15cm前後の円形を呈する。

##### S B14 (第6図)

調査区の北東で検出した2間(4.0m) × 4間(6.3m) の南北棟建物で、北東角の柱穴は調査区外とみられる。主軸方位はN・30°・Eに取る。柱穴掘方はいずれも平面円形を呈し、径0.4~0.6m、深さ0.3~0.45mを図る。2個の柱穴で柱痕跡を確認した。径15cm前後の円形を呈する。

##### S B15 (第7図)

調査区の北西で検出した2間(3.6m) × 4間(6.6m) の南北棟建物で、主軸方位はN・30°・Eに取る。柱間寸法が他の建物より規格に則っている。柱間寸法は梁行が1.8m、桁行は真中の2間が1.8m、両端の1間が1.5mを測る。柱穴掘方はいずれも平面円形を呈し、柱痕跡の径とともに他の建物より規模が大きい。径0.55~0.65m、深さ0.5~0.75mを図る。10個の柱穴で柱痕跡を確認した。径20cm前後の円形を呈する。

##### S B16 (第8図)

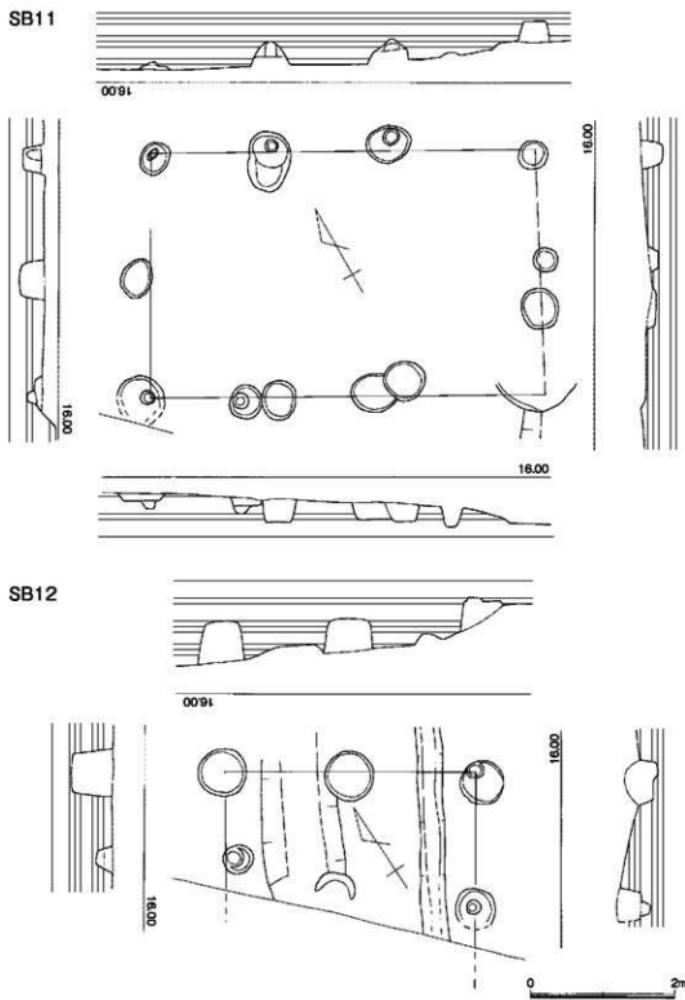
調査区の南東で検出した2間(3.0m) × 4間(7.0m) の南北棟建物で、主軸方位はN・30°・Eに取る。柱穴掘方はいずれも平面円形を呈し、径0.55~0.65m、深さ0.3~0.65mを図る。11個の柱穴で柱痕跡を確認した。径15~20cmの円形を呈する。

##### S A17 (第9図)

調査区の北西で検出した4間(7.2m) 分の柱列であるが、東側が造成により大きく削平を受けていることから、2間×4間規模の南北棟建物の西側柱であろう。主軸方位はN・40°・Eに取る。柱間寸法は1.8mを測る。柱穴掘方はいずれも平面円形を呈し、径0.55~0.65m、深さ0.65~0.75mを図る。2個の柱穴で柱痕跡を確認した。柱は径15cm前後の円形を呈する。

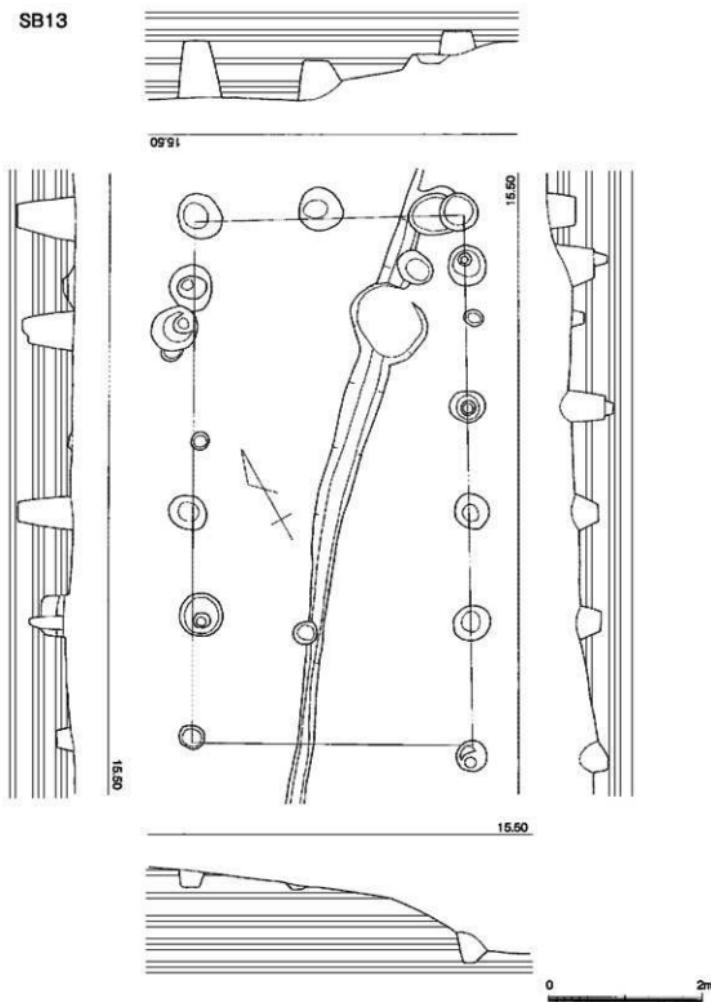
##### S B18 (第9図)

調査区の南側で検出された2間(3.6m) × 3間(5.4m) の東西棟建物で、主軸方位はN・45°・Eに取る。柱間寸法は概ね1.8mを測る。柱穴掘方はいずれも平面円形を呈し、径0.3~0.45m、深さ0.15mを図り、他の建物の柱穴より小規模である。5個の柱穴で柱痕跡を確認した。柱は径10cmの円形を呈する。



第4図 SB11・12掘立柱建物実測図（縮尺1/60）

SB13

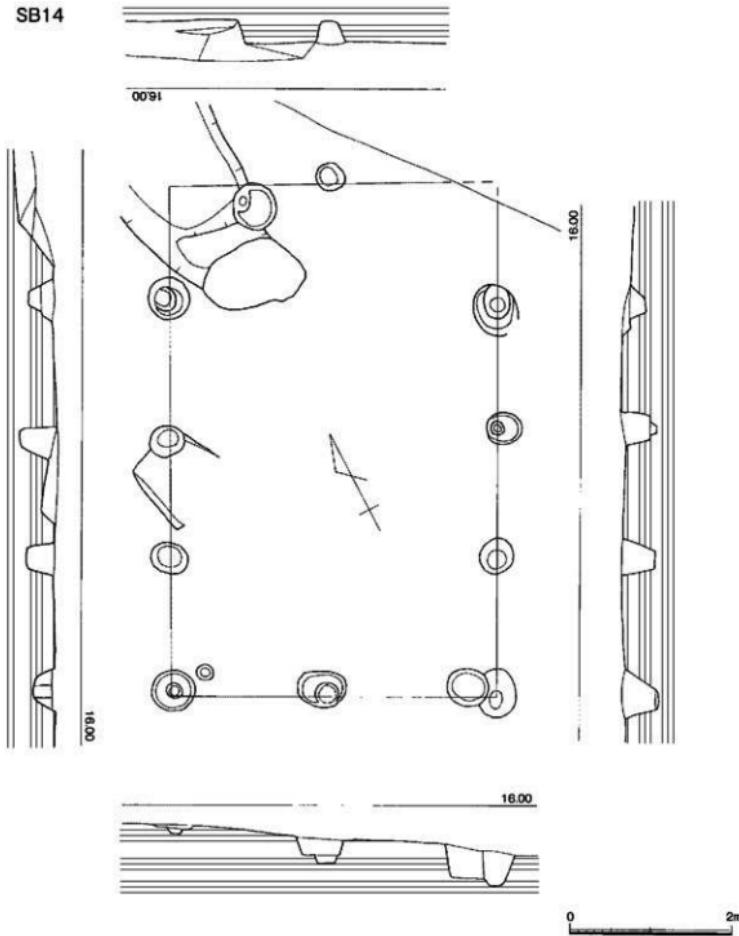


第5図 SB13掘立柱建物実測図（縮尺1/60）

(2) 溝

SD02 (第3図)

調査区の中央部で検出された南から北方向へ走る溝で、幅1.5~1.8m、深さ0.3~0.5mを測る



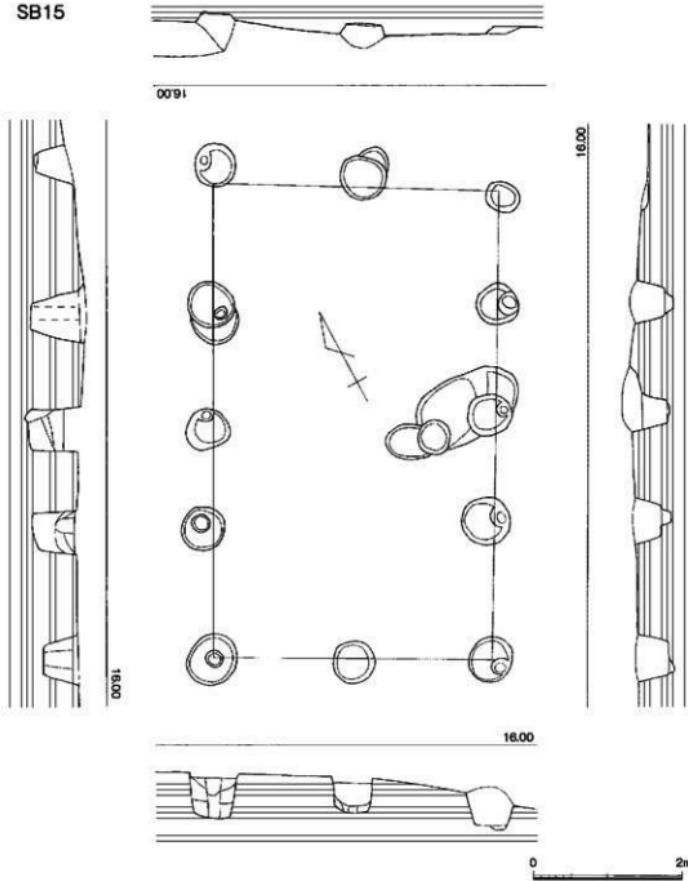
第6図 SB14掘立柱建物実測図（縮尺1/60）

出土遺物（第10図）

須恵器 杯（1~6） 受け部をもつ杯で、小さい受部から立ち上がり部が短く内傾している。口径9.6~11.2cm、器高2.8~4.0cm、受け部径9.6~11.4cmを測る。2がPit124、3がPit113、4がPit51、5がPit72、他は表土からの出土。

杯蓋（7・8・13） 7は器高が低く、口縁端部はわずかにつまみ出される。Pit30・32出土。8も器高が低く、口縁端部は断面三角形を呈し、外にやや開く。

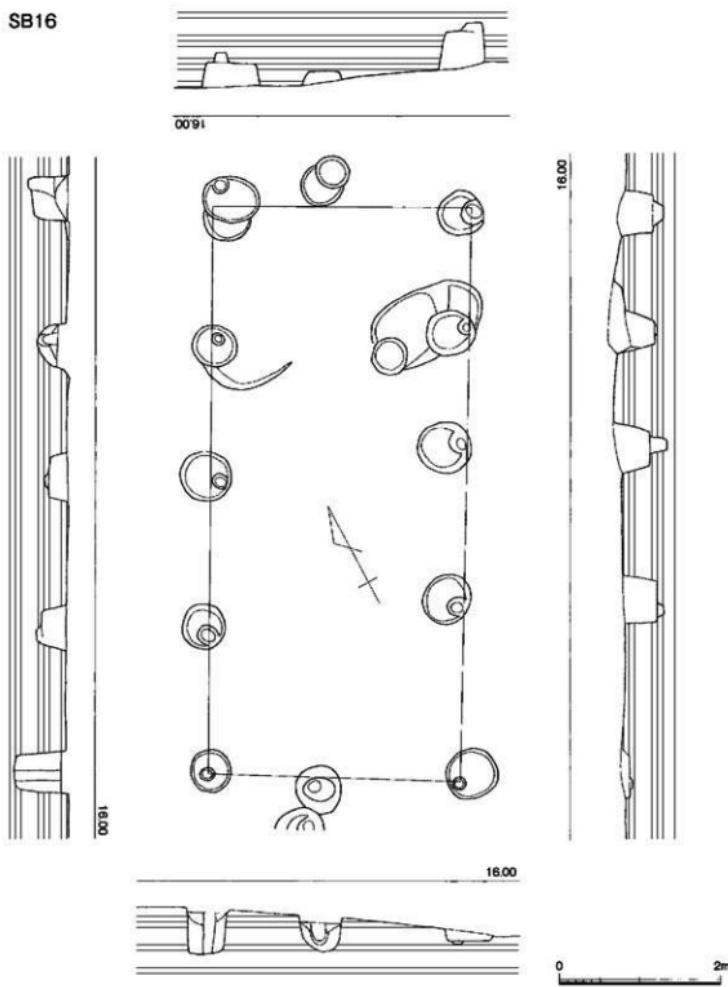
SB15



第7図 SB15掘立柱建物実測図（縮尺1/60）

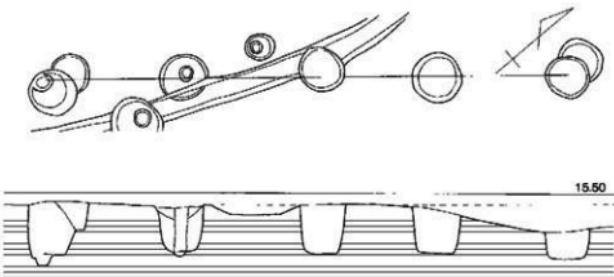
高台杯（9～12・14・15）いずれも底部と体部の境が明瞭で稜がつく。体部がほぼ直線的にのび、11は口縁下でわずかに外反する。9は外に開く低い高台がつく。10・11は断面四角形の低い高台がつき、内側が接地、外側が跳ね上がる。11・12・14がSD01、9・10は包含層からの出土。

SB16

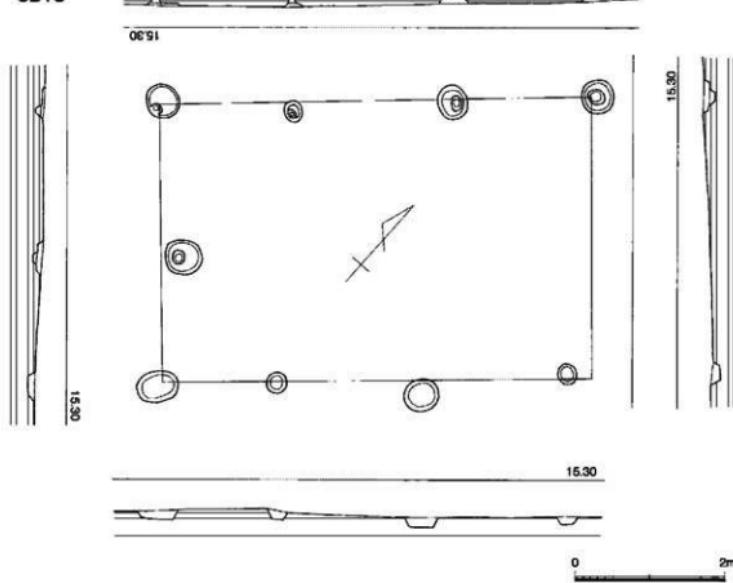


第8図 SB16掘立柱建物実測図（縮尺1/60）

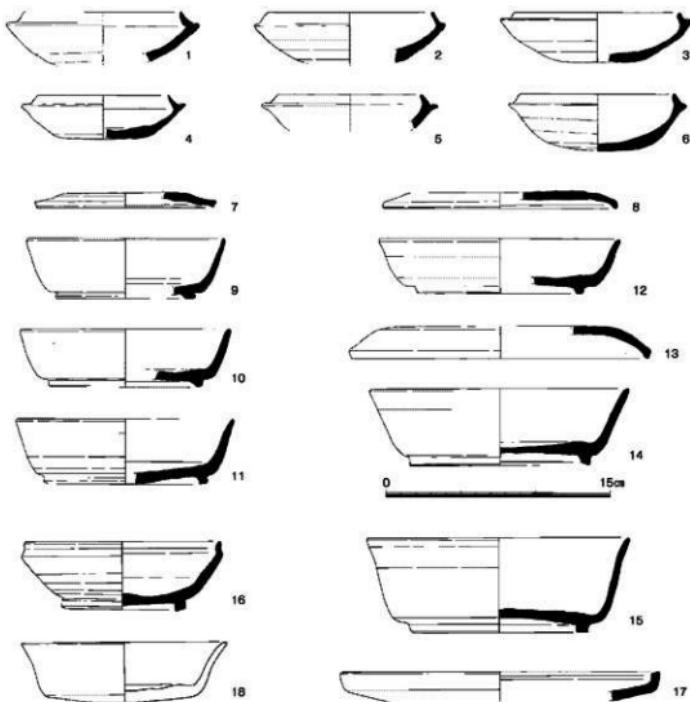
SA10



SB18



第9図 SA10・SB17据立柱建物実測図（縮尺1/60）



第10図 出土遺物実測図（縮尺1/3）

椀（16） 断面方形の高台を底部内側に貼付する。体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部下で内側に屈曲し、端部は短く直立する。Pit99出土。

高杯（17） 口縁部は屈曲し直に立ち、端部は平坦になります。SD01出土。

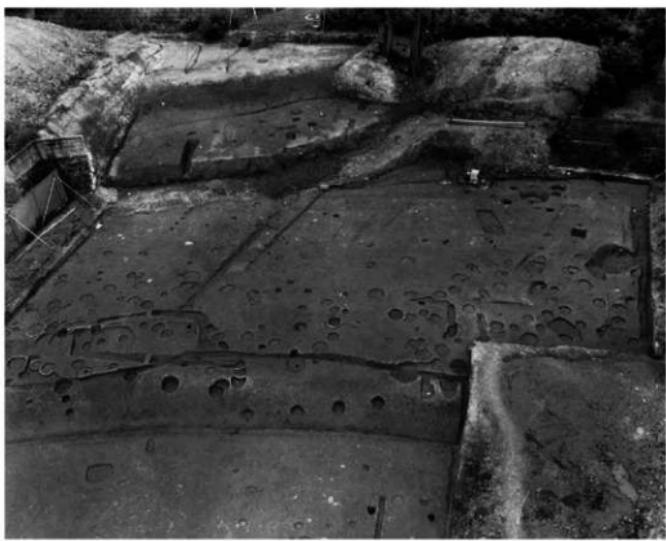
土師器 杯（18） 底部と体部の境が明瞭で稜がつく。体部はほぼ直線的にのび、口縁下でわずかに外反する。Pit98出土。

#### IV 小 結

今までの周辺の調査成果から古墳時代後期～古代の遺構が存在することが予想されたが、今回調査された範囲は集落の辺縁部とみられる。緩斜面が近年段状に造成されていたことから、集落の全貌の復元は困難であるが、柏原M遺跡で検出された建物群の内、西側の一群と建物の規模や規格が近似している。



1. 大平寺遺跡第2次調査全景（南から）



2. 捜立柱建物群（南東から）

図版2



1. 南西掘立柱建物群（南東から）



2. 北東掘立柱建物群（南西から）



1. 調査区上中段調査前（東から）



2. 調査区上段（南西から）

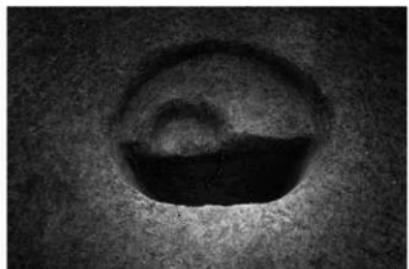


3. 調査区最上段（南から）

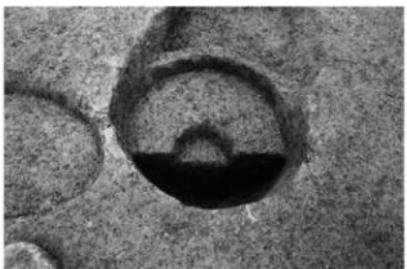


4. ピット状遺構根石（南から）

図版4



1. SB11 (pit62) 土層 (西から)



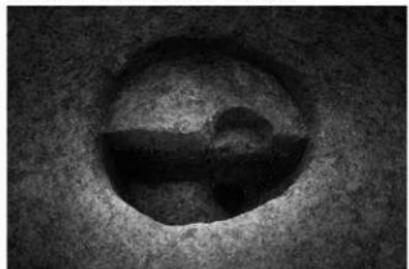
2. SB11 (pit63) 土層 (北から)



3. SB11 (pit134) 土層 (北から)



4. SB13 (pit133) 土層 (西から)



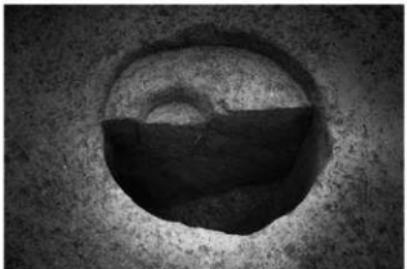
5. SB13 (pit79) 土層 (東から)



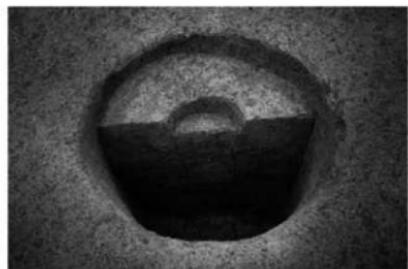
6. SB14 (pit21) 土層 (西から)



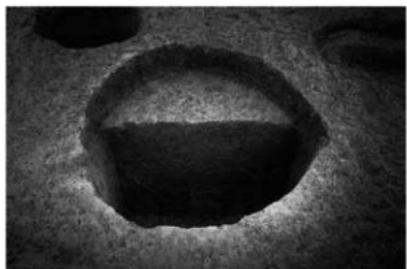
7. SB15 (pit49) 土層 (西から)



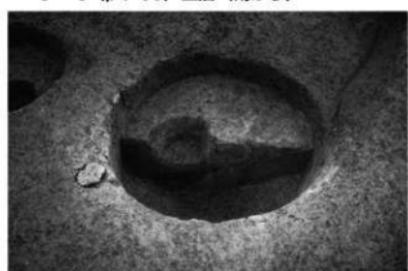
8. SB15 (pit51) 土層 (西から)



1. SB15 (pit109) 土層（南から）



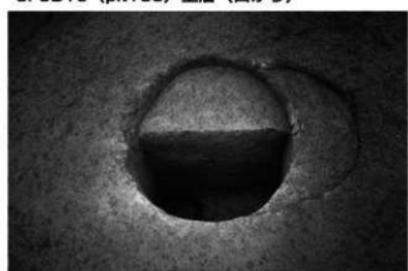
2. SB15 (pit22) 土層（南から）



3. SB16 (pit135) 土層（西から）



4. SB16 (pit18) 土層（南から）



5. SB16 (pit45) 土層（西から）



6. SA10 (pit132) 土層（南東から）

圖版6



1. 調査風景（北東から）



15



16



17



18



19



20

2. 出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	たいへいじいせき						
書名	大平寺遺跡1						
調査名	大平寺遺跡第2次調査報告						
シリーズ名	福岡市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第1225集						
編著者名	佐藤一郎						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1-8-1						
発行年月日	2014年3月24日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北 緯	東 經	発掘期間	発掘面積m <sup>2</sup>	発掘原因
たいへいじいせき 大平寺遺跡	ふくおかげんふくおかし 福岡県福岡市 たいへいじ 大平寺二丁目327地	40122 176	33° 31' 49"	130° 23' 39"	19930601 19930820	1,261	記録保存調査
所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項		
太平寺遺跡	集落	古墳時代・古代	掘立柱建物・溝	土師器・須恵器			
要 約	古墳時代後期～古代を中心とする遺構密度の高い掘立柱建物群を検出						

---

# 大平寺遺跡 1

— 大平寺遺跡第2次調査報告 —  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1225集

2014年（平成26年）3月24日発行

発 行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印 刷 有限会社 白木印刷  
福岡市南区若久1丁目2-30

---